

ビルマ(ミャンマー)

日本の援助が国民を支えるために

2010年1月23日

秋元 由紀

ビルマ(ミャンマー)

- 1962年から軍事政権下

- 現在の軍事政権
= 国家平和発展評議会
(SPDC)

トップはタンシュエ上級将軍







ビルマ(ミャンマー)
日本の援助が国民を支えるために

これまでの対ビルマ援助

- ・「新規」円借款は1989年から凍結
 - * 1998年にヤンゴン国際空港拡張工事
- ・ここ数年は毎年、30億円前後
 - 円借款凍結前は毎年、500億円前後
- ・それでも日本は最大援助国

軍政下での開発事業

- 住民の意見を聞かない
- 環境・社会影響調査なし
- 移転などあっても補償なし
- 強制労働、強制移住があるときも

* バルーチャウン水力発電所事業

報告書「ビルマ 軍政下のダム開発～カレンニーの教訓、バルーチャウンからサルウィンへ」を参考

日本は援助拡大を示唆

2009年11月7日 日緬首脳会談

鳩山総理：

- ・「人道支援及び人材育成分野の支援を段階的に拡大することを考えている」
- ・「来年予定の総選挙が我々の期待する方向で行われれば...様々な支援を強めていくことができるようになる」

軍政は2010年に
総選挙の実施を計画中

選挙で何か変わるのか

2008年憲法

= 軍政存続を保証、合法化する内容

総選挙は解決策ではない

仮に

総選挙が自由公正に
行われたとしても

国軍主導の体制が続く

貧しい印象があるが・・・？

軍政にはお金がある

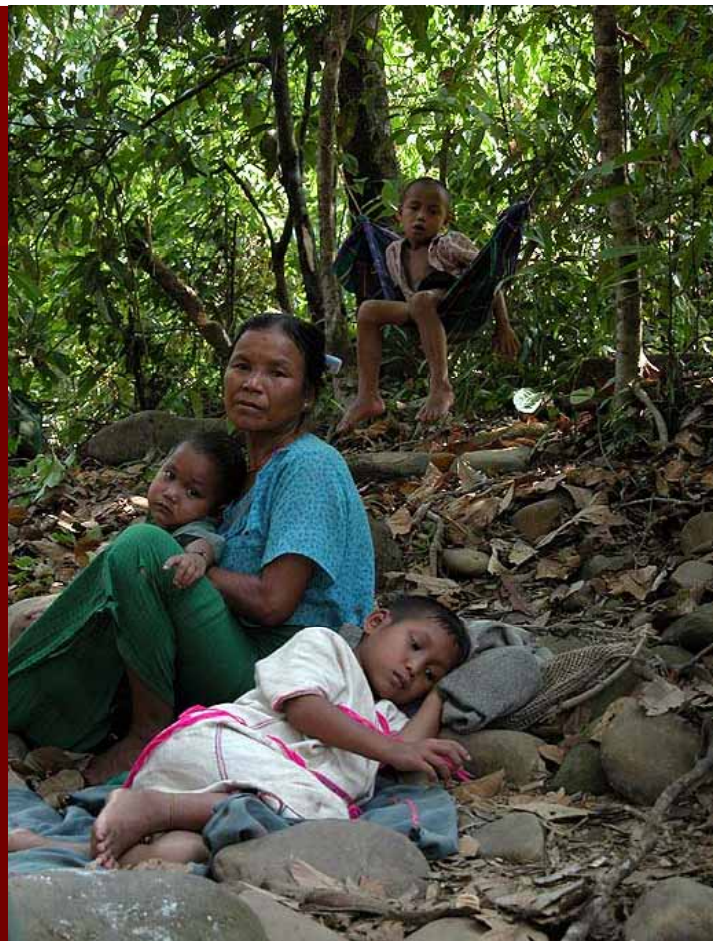
軍政存続の「秘訣」= 天然ガス輸出

- ・毎月の収入は1.3から1.8億ドル
- ・外貨準備高は数十億ドル

使い方に問題

国家予算の約半分 軍事費

- ・医療保健分野への支出はGDP の0.3%。
- ・国民1人当たり0.7ドル(2007年)。





ビルマ(ミャンマー)
日本の援助が国民を支えるために

2010年1月23日

秋元 由紀